

【木村前理事長からのご挨拶】

ホームページをご覧のみなさまへ
ありがとうございました。

本年6月14日の評議員会をもってはるにれの里に入職して34年、理事に就任して32年、そして6期12年の理事長職を離れることとなりました。長きにわたって支えてくれたご家族と利用者の皆さん、そして心から誇れる優秀なはるにれの職員の皆さん、さらには全国の自閉症支援に日夜全力を投入している仲間の皆さん、長きにわたりご理解ご支援をいただいた行政機関の皆さん、本当にありがとうございました。

いうまでもなくはるにれの里は重度自閉症、とりわけ激しい行動障がいを含わせ持つて成人期を迎えた自閉症児をもつ親たちの運動で39年前につくられた法人であります。開設施設である厚田はまなす園は40名の内20名近くがそうした利用者でスタートしました。

私は開設5年目で課長として入職しました。自閉症支援の右も左も知らないで飛び込んだ結果は毎日が悪戦苦闘で今までの経験はほとんど役に立たず、一から勉強し直す、そういう意味では毎日が新鮮な日々であったと思います。支援の混乱期を乗り越えて出会った科学的に根拠のある自閉症支援療育プログラムのおかげで、多くの障がい者は落ち着きを取り戻すことが可能となり、さらに地域生活移行が可能となりました。こうした成果の背景には、行動障がいをもって成人期を迎えた人たちの生きづらさを何とかしたいという職員一人一人のあくなき挑戦でした。そしてさらに加えて家族の理解と支えがなくては不可能であったことは言うまでもありません、家族に支えられてきたからこそ今日のはるにれの里があることを忘れてはなりません。改めてご家族の皆様方には、心より感謝申し上げます。今日のはるにれの里は、世の中全体が人材確保受難の嵐が吹く中で多くの課題を抱えています。その課題を一つ一つ乗り越えていくためには、若い職員のエネルギーが必要です、私は常日頃思っていることは、社会福祉法人という組織というものは、常に揺れ動き続ける福祉ニーズに対して一時も同じ位置にとどまることできない、前進か、後退かの二つである。であるとしたら私たちには前進の道を切り開くことしかない、それが今日のはるにれの里であります。若い優秀な人材がこれからもどんどん出てくると思います。新しい加藤新理事長のもと若さでさらに新しいはるにれの里を創造していただきたいと思います。長い間本当にありがとうございました。

木村 昭一

【加藤新理事長からのご挨拶】

ホームページをご覧のみなさまへ

6月14日土曜日の評議員会及び理事会において、私、加藤潔が社会福祉法人はるにれの里理事長に就任いたしました。木村昭一前理事長のようなカリスマ性はまったくありませんし、頼りなく隙だらけの人間ですが、未熟なりに自分のベストは尽くします。

2025年度はすでに動いていますから、動いているときに急に何かを変えたり急に新しいことを始めたりするのは得策だと考えておりません。まずは「てはじめ」でスタートします。

【て・・・適応】

加藤自身が新しい環境や職務に適応しないとなりません。適応と順応は異なる概念だと加藤は考えています。ざっくり言えば自分の持ち味を変えてなじむことが順応、自分の持ち味を変えずになじむことが適応。適応を急ぎます。

【は・・・把握】

はるにれの里は、石狩市や札幌市のいろいろなエリアで事業展開をしており、各エリアごとの雰囲気や個性があるのは、はるにれの里の強みでもあります。各エリアの把握に努め、学ばせていただきます。

【じ・・・巡回】

把握するための最大の策は、実際に見ることだと思っています。一回見ただけでわかるはずはないので、自分が動けるとときには法人内のちこちの事業所におじゃましてだれかに教えてもらいます。

【め・・・メッセージ】

加藤の考えは随時メッセージとして法人内に発信していこうと考えています。文章だったり動画だったり、いろいろな形で発信していくつもりです。炎上するかもしれないので法人外への発信はしばらく控えておきます。

はるにれの里がずっと残り続ける組織であるために、これからも多くの方のお力添えをいただかなくてはなりません。どうぞよろしくお願いいたします。

加藤 潔